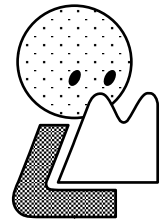


絵本の世界へ⑤

～むかしばなしえほん～ 大阪市立図書館 2026



◎図書に関する記載事項は、次の順になっています。書名／著編者・画家・訳者／出版社／本の大きさ／ページ数／ISBN

赤ずきん グリム原作 パーナディット・ワッツ絵 生野幸吉訳 岩波書店 32cm 32p 978-4-00-110580-3

赤ずきんは、ワインとお菓子を持っておばあさんの家にお見舞いに行く途中、森の中でオオカミに会い、道草をしてしまいます。よく知られたグリムの昔話を鮮やかな色彩と丁寧な文章で描いています。

いっすんぼうし いい ももこ著 あきの ふく絵 福音館書店

21×22cm 40p 978-4-8340-0051-1

親指ほどの小さな体の一寸法師が、お椀を舟に、針を刀にして都へのぼります。丁寧につづられた文章と、優しいタッチで描かれた絵巻物のような雰囲気作画がうまく調和しています。



うまかたやまんば おざわ としお再話 赤羽末吉絵 福音館書店 22×25cm 31p 978-4-8340-0809-8

恐ろしいやまんばに追われて、うまかたが逃げこんだのは、当のやまんばの家でした。宮城県に伝わる昔話を、見開き画面を縦横自在に使い分け、擬音も効果的に使った読みやすい文章に再話しています。

王さまと九人のきょうだい ー中国の民話ー 赤羽末吉絵 君島久子訳 岩波書店

26cm 42p 978-4-00-110557-5

顔もからだつきもそっくりな9人の兄弟は、それぞれの特技を活かして、悪い王様をやっつけます。無理難題を言いつける王様が、最後に波にのまれてしまうのも痛快です。

おおかみと七ひきのこやぎ ーグリム童話ー グリム原作 フェリクス・ホフマン絵 せた ていじ訳

福音館書店 22×30cm 32p 978-4-8340-0094-8

お母さんやぎの留守を狙い、オオカミはまんまと6匹の子やぎを丸呑みにします。難を逃れた末っ子やぎとお母さんやぎは機転をきかせて子やぎたちを助け出します。細密な描写と落ち着いた彩色が美しくお話をひきたてています。

おおきなかぶ ーロシアの昔話ー A.トルストイ再話 佐藤忠良絵 内田莉沙子訳 福音館書店

20×27cm 27p 978-4-8340-0062-7

おじいさんの植えたカブは大きく育ち、なかなか抜けません。そこで、おばあさんを、次に孫を、犬、猫、ネズミと順々に呼び、一緒になって引っぺします。「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声が楽しめます。

おだんごばん ーロシアの昔話ー わきた かず絵 せた ていじ訳 福音館書店

31cm 23p 978-4-8340-0057-3

おじいさんとおばあさんのもともとから逃げ出したおだんごばんは、食べられそうになる度に、歌いながら逃げて行きます。温かくおらかな絵が、独特の、のんびりした雰囲気を生み出しています。

かえるをのんだととさん ー日本の昔話ー 日野十成再話 斎藤隆夫絵 福音館書店

20×27cm 31p 978-4-8340-2305-3

おなかが痛いとおしょうさんに相談すると、「はらのなかにいるむしのせいじゃ。」と言われ、かえるをのんだととさん。次はへび、その次はきじ……。どんどん大きなものを飲みこんでいく様子にはらはらしますが、コミカルな絵が笑いをさそいます。

かにむかしー日本むかしばなしー 木下順二著 清水 崑絵 岩波書店 33cm 44p 978-4-00-110577-3

猿に殺されたカニの子どもたちが、栗、蜂、石臼たちの加勢を得て、仇討ちに向かいます。広く知られているお話がユーモラスな絵で描かれます。語りの特徴を活かした文章は声に出して読むと、より楽しめます。

三びきのこぶた ーイギリスの昔話ー 山田三郎絵 瀬田貞二訳 福音館書店

27cm 18p 978-4-8340-0097-9

お母さん豚からひとり立ちした3匹の子豚たちはめいめいで家をたてます。1番目と2番目の子豚はオオカミに食べられますが、3番目の子豚は知恵を働かせてオオカミをやっつけます。元の昔話を忠実に絵本化しています。

三びきのやぎのがらがらどん ―ノルウェーの昔話―

マーシャ・ブラウン絵 せた ていじ訳 福音館書店 26cm 32p 978-4-8340-0043-6

3匹のヤギの名前はどれもがらがらどん。山の草場へ行く橋の下には恐ろしいトロールがすんでいて、ヤギたちをひとのみにしようと待ち構えます。うまくトロールをかわし、最後は谷底へ突き落とすヤギたちの活躍が力強く描かれます。

スーホの白い馬 ―モンゴル民話― 大塚勇三再話 赤羽末吉絵

福音館書店 23×31cm 48p 978-4-8340-0112-9

モンゴルの楽器、馬頭琴の由来話です。羊飼いの少年スーホが大切に育てた白馬が競馬で優勝しますが、殿様はその馬を取り上げてしまいます。壮大な平原を画面いっぱいに描き、物語の舞台の雰囲気をよく伝えます。



だいくとおにろく ―日本の昔話― 松居 直再話 赤羽末吉絵

福音館書店 20×27cm 27p 978-4-8340-0085-6

むずかしい橋かけを頼まれ途方にくれる大工の前に、橋をかけてやるから目玉をよこせという鬼が現れました。あいまいな返事で逃れたものの、「目玉よこせ」「待ってくれ」と応酬は続きます。迫力ある絵のカラーと白黒のページの対比が絶妙です。

だごだごころころ 石黒漢子・梶山俊夫再話 梶山俊夫絵 福音館書店 31cm 32p 978-4-8340-1218-7

じいさんが食べようとしたとたん、だご（だんご）はころころと穴の中へ。それを追いかけたばあさんは赤鬼たちにセがまれ、だごを山のようにつくることになります。のんびりとした口調の昔語り味わい深く楽しめます。

たなばた ―中国の昔話― 君島久子再話 初山 滋絵 福音館書店 20×27cm 27p 978-4-8340-0512-7

牛飼いの妻となり人間の世界で暮らす織姫。それを知った王母さまは織姫を天に連れ戻しますが、牛飼いと子どもが織姫を慕って泣くのを哀れんで、年に一度カササギが架けた橋の上で会うことを許します。幻想的な味わいの絵本です。

てぶくろ ―ウクライナ民話― エフゲーニ・ラチョフ絵 うちだ りさこ訳 福音館書店

28cm 16p 978-4-8340-0050-4

森に落ちた手袋にネズミ、カエル、ウサギ、と動物たちが入っていきます。大きな動物までどんどん入っていく面白さに加えて、だんだんに膨らんで家のようになっていく手袋の絵の細部を見るのも楽しみです。

ねむりひめ ―グリム童話― グリム兄弟原作 フェリクス・ホフマン絵 せた ていじ訳 福音館書店

31cm 32p 978-4-8340-0014-6

13番目の占い女に呪いをかけられた美しい姫は、100年の眠りにおちます。100年目に訪れた王子が城に入ると、そこではあらゆるものが眠っていました。大胆な画面構成と繊細な描写が昔話の世界をよく表しています。

1つぶのおこめ ―さんすうのむかしばなし― デミ著・絵 さくま ゆみこ訳 光村教育図書

26×26cm 40p 978-4-89572-686-3

けちな王様の落としたお米を届けたごほうびに、30日のあいだ、前の日の倍の数だけお米をもらうことにした村娘のラーニ。今日は1粒、明日は2粒、あさっては4粒。さて、30日目は何粒になるでしょう。細密画で描かれた見開きページは圧巻です。

ブレーメンのおんがくたい ―グリム童話― グリム原作 ハンス・フィッシャー絵 せた ていじ訳 福音館書店

31cm 32p 978-4-8340-0031-3

飼い主に家を追い出されたロバ、イヌ、ネコ、オンドリが、音楽隊に入るためブレーメンの町をめざします。途中、ひと休みに立ち寄った家にどろぼうがいて、動物たちは追い払おうと力を合わせます。シンプルながら臨場感のある絵で、おはなしに引き込まれます。

ももたろう 松居 直著 赤羽末吉絵 福音館書店 21×22cm 40p 978-4-8340-0039-9

桃から生まれた桃太郎が、犬、猿、キジをお供にして、鬼が島へ鬼退治に向かいます。おなじみの昔話を大胆な構図を用いて、墨絵のタッチで力強く描き出しています。リズムカルな文章も読んでいて楽しめます。